

診療所における新興感染症対策 研修検討委員会（プロジェクト）

報告書

診療所を対象とした新興感染症対策研修の企画及び実践について

令和6年6月

日 本 医 師 会

診療所における新興感染症対策研修検討委員会
（プロジェクト）

令和6年6月11日

公益社団法人日本医師会

会長 松本吉郎 殿

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）

委員長 舘田一博

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）報告書

本委員会は、2023年（令和5年）10月25日に開催された第1回委員会において、貴職より「診療所を対象とした新興感染症対策研修の企画及び実践」について諮問を受け、これまで4回の委員会と1回の研修会を開催し、検討及び実践をしてまいりました。

ここに本委員会での検討を踏まえ、報告書を取りまとめましたので、答申致します。

診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）委員

委員長 舘田 一博

（東邦大学 微生物・感染症学講座 感染病態・治療学分野教授）

委員 鳥居 明

（東京都医師会理事）

（日本医師会「予防接種・感染症危機管理対策委員会」委員）

〃 笹生 正人

（神奈川県医師会理事）

〃 鋤方 安行※

（大阪府医師会理事、関西医科大学 救急医学講座 教授）

（日本医師会「救急災害医療対策委員会」委員）

〃 平林 弘久※

（兵庫県医師会理事）

（日本医師会「救急災害医療対策委員会」委員）

〃 泉川 公一※

（日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会 委員長）

（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野 教授）

（長崎大学病院 感染制御教育センター センター長）

〃 菅原 えりさ※

（日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会 委員）

（東京医療保健大学 大学院 医療保健学研究科 教授）

※日本医師会 JMAT 研修オプション研修(COVID-19 編)インストラクター

目次

I. 緒言	1
II. 診療所における新興感染症対策研修の企画、実施	2
III. 診療所における新興感染症対策研修後の対応、検証	6
IV. 総括	7

I. 緒言

診療所は、感染症法に基づく協定締結医療機関か否かを問わず、平時では地域医療の第一線を担い、有事でも相応の対応をすることが求められる中、診療所の新興感染症への対応力を一層高める取り組みの一環として、日本医師会は「診療所を対象とした新興感染症対策研修」（以下、本研修）を令和6年3月24日に開催することとした。上記に伴い、松本吉郎会長から「診療所を対象とした新興感染症対策研修の企画及び実践について」という諮問がなされたことに基づき、診療所における新興感染症対策研修検討委員会（プロジェクト）（以下、本委員会）が設置された。

具体的には、本委員会で医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会のためのモデルとなる研修の企画、実施、事後検証の実施を行い、また、医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会による研修への支援の方策の検討も行った。

研修内容については、2023年7月に日本医師会にて実施した、JMAT 研修オプション研修（COVIT-19 編）（以下、JMAT オプション研修）も参考にしながら、研修プログラム、教材、必要な資器材や実施方法等の検討を実施した。

研修終了後には、研修備品貸出フローの構築や、本研修に係る資料・動画の公開を行い、各地域での研修の支援体制を構築した。また、受講後アンケートの集計結果を元に、本研修の振り返り・改善について協議を図った。

II. 診療所における新興感染症対策研修の企画・実施

2023年10月25日に開催した第1回の委員会では、釜菴常任理事より本研修開催の趣旨について説明がなされた。その後、平林委員より本研修が参考とするJMATオプション研修及び兵庫県医師会で実施した感染対策研修の概要説明、本研修の実習案が示された。これを踏まえ、本研修の方向性について協議を行い、以下の方向性について共通の認識とした。

- ・受講者には、各地で研修を企画する指導者の立場で受講してもらい、モデル研修の体験及び地域で研修企画するために必要なノウハウを学習してもらう。
- ・受講者は、原則医師で各都道府県から上限3名とし、現在および将来において、研修を企画・実施し、次の新興感染症発生・まん延時に中心となる人物が望ましい。
- ・研修内容は、JMATオプション研修を参考とし、新興感染症・診療所を対象とした研修に即した内容にする。

同年12月25日に開催した第2回委員会では、歙方委員、鳥居委員、笹生委員より各都府県医師会で実施している感染対策研修の概要説明がなされた。これを参考にしつつ、本研修の開催時間、事前eラーニング・当日実習の担当、事前eラーニングの内容について協議を行った。また、研修を受講した指導者が、各地で研修会を企画するに当たり、後から振り返りもう一度流れを確認できるようにするため、研修終了後に研修コンテンツ及び研修の様子を日本医師会ホームページ内にて、受講者向けに公開することとした。

本研修開催前最後となる第3回委員会は、令和6年2月7日に開催し、各講義・実習について、状況設定、実習の流れ、時間配分、実習に必要な資器材等について確認を行った。本研修の実技実習・机上演習の講師については、本委員会委員に加え、本委員会の泉川委員、菅原委員を中心とした、日本環境感染学会各位に務めていただいた。また、厚生労働省からオブザーバー参加を頂いた。研修会当日は102名の受講者があった。当日のプログラム、講師一覧は次の通りである。

診療所における新興感染症対策研修 プログラム

令和6年3月24日（日）

◆趣旨

日本医師会として、診療所の新興感染症に対する総合力を一層高めることを目的に、医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会のためのモデル研修を行う。

◆学習目的

受講者が、都道府県医師会・郡市区医師会において、次の新興感染症のまん延時を想定した、診療所における感染対策・発熱外来・自宅療養者居宅への往診、訪問診療等での感染症対策研修の企画・実施に必要な知識・知見・技術を身につける。

◆会場：日本医師会館

- 開会： 1階 ロビー
- 実技実習：1階 ロビー・喫茶室・トイレ
- 机上演習：3階 小講堂

◆日程：令和6年3月24日（日）

- 2グループに分け、開始時間帯をずらしながら、一部同時に開催する。

- ① 9：30～10：00（受付）
10：00～10：10（開会挨拶、研修趣旨説明）
10：10～11：10（実技実習）
11：20～12：50（机上演習）
12：50～13：00（講評、閉会挨拶、解散）
- ② 11：00～12：00（受付）
12：00～12：10（開会挨拶、研修趣旨説明）
12：10～13：10（実技実習）
13：20～14：50（机上演習）
14：50～15：00（講評、閉会挨拶、解散）

【対象都道府県】

- ① 北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、鳥取県、島根県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県（21 道県）
- ② 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、島根県、岡山県（23 都府県）

◆事前学習（JMAT-e・小テストあり）

	科目	概要	講師	時間
講義	新興感染症概論	・疫学と臨床像の最新の知見	舘田 委員長	30分
講義	医療提供体制	・新興感染症に備えた医療提供体制日本医師会の対策について	釜范 常任理事	30分
講義	標準予防策	・診療所における感染対策（標準予防策、ゾーニング）	泉川委員 菅原委員	20分
講義	検体の採取	・厚生労働省掲載動画「新型コロナウイルス感染症に関するPCR検査のための鼻腔・咽頭拭い液の採取のための研修動画」（2020/05/20）	鎌方委員	20分

◆当日プログラム

	科目	概要	時間
実習	標準予防策（実技）	・手指衛生（ブラックライトによる手洗い確認）	20分
	PPEの着脱（実技）	・个人防护具の着脱手順 ・N95マスクの着脱手順	20分
	検体の採取（実技）	・検体採取実習（鼻咽頭ぬぐい液、唾液）	20分
実習	ゾーニング（机上演習）	・平時の手指消毒薬やPPE設置場所の考え方 ・診療所におけるゾーニング	90分

◆事後学習（JMAT-e）

	科目	概要	時間
講義	標準予防策	・手指衛生動画（流水手洗い・アルコール消毒）	5分
資料	・診療所におけるPPEの設置場所 ・診療所におけるゾーニング	・机上演習設問、回答確認	5分

令和6年3月24日 診療所における新興感染症対策研修 講師一覧

所属団体	氏名
診療所における新興感染症対策研修検討委員会委員長★	舘田 一博
東京都医師会★	鳥居 明
神奈川県医師会★	笹生 正人
大阪府医師会★	鋤方 安行
兵庫県医師会★	平林 弘久
日本環境感染学会 理事長	四柳 宏
日本環境感染学会★	泉川 公一
日本環境感染学会	櫻井 滋
日本環境感染学会★	菅原 えりさ
日本環境感染学会	高山 和郎
日本環境感染学会	小野寺 直人
日本環境感染学会	川村 英樹
日本環境感染学会	寺坂 陽子
日本環境感染学会	千酌 浩樹
日本環境感染学会	古宮 伸洋
日本環境感染学会	加藤 英明
日本環境感染学会	田中 健之
日本環境感染学会	柿内 聡志
日本環境感染学会	上灘 紳子
日本環境感染学会	具 芳明
日本環境感染学会	美島 路恵
日本環境感染学会	中澤 靖

★日本医師会 診療所における新興感染症対策研修検討プロジェクト委員会

講師は、研修当日に事前ミーティングを実施し、各実習・演習の状況設定、実習の流れ、時間配分を確認した。

Ⅲ. 診療所における新興感染症対策研修後の対応・検証

研修受講者には、日本医師会より修了証を発行するとともに、医師会ブロック、都道府県医師会や郡市区医師会による研修への支援のため、JMAT 研修と並行して、日本医師会で所有する資器材の貸し出しを行うこととした。※1

また、第2回委員会で検討した、各地で研修会を企画する指導者向けの研修参考コンテンツについては、日本医師会ホームページ内にて、本研修の受講者・都道府県医師会事務局向けに公開している。※2

2024年5月15日に開催した第4回の委員会において、本研修の振り返り、改善に関する検討を行った。受講者を対象に実施した受講後アンケート（以下、本アンケート）（集計期間：3月24日（日）～4月24日（水）、回答数：78名（回答率76.47%）、回答者属性：医師74名、看護職員2名、事務局1名、不明1名）では、事前学習（eラーニング）について、「大変有用であった」「まあ有用であった」と答えた割合の合計は97.4%。当日研修の研修内容が学習目的に「十分合致している」「やや合致している」と答えた割合の合計は96.2%であり、概ね評価は高く、本研修の開催目的はある程度達成できたかと思われる。

しかし、各地域で研修を企画・実施する上での課題としては、講師の確保や、新興感染症対策への協力意思が低く研修に参加しない医師に対するアプローチ方法などがあげられ、今後、課題を解決するために、本研修の見直しも必要であることの認識の共有がはかられた。

また、本アンケート結果は、各地区の研修を企画・運営する指導者にとっても大変参考になる内容であるため、本研修の講師並びに受講者に対して共有することとした。

※1 令和6年4月2日付日医発第30号（地域）「感染対策研修用備品貸出のご案内」

※2 令和6年5月7日付日医発第277号（地域）「診療所における新興感染症対策研修の動画・資料公開について」

IV. 総括

日本医師会会長 松本吉郎会長の諮問を受けて本委員会が設置され、「診療所における新興感染症対策研修プロジェクト」（以下、本プロジェクト）が2023年10月に動き出した。日本医師会はこれまでに JMAT オプション研修などを開催してきた経緯があり、その経験を踏まえ、全国の診療所を対象とする新興感染症対策の一層の充実・向上を目的として本プロジェクトが企画された。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの中で、大学病院や基幹病院はもちろんのこと、それら医療機関と連携する診療所の重要性が改めて認識されるにいたったが、パンデミック初期には感染対策への対応が難しく、個々の医療機関の診療への参加がなかなか進まない状況も散見された。感染様式・感染対策に対する知見の集積、ワクチンや治療薬の臨床応用が進む中、協力いただける医療機関・診療所の数も増加し、医療現場の混乱は改善していった。特に診療所においては、限られたスペース（診察室・待合室など）、限られたリソース（感染対策備品の確保など）、限られたマンパワー（医師・看護師の確保等）の中でどのように診療を続けるかという難しい問題に直面したことを忘れてはならない。

このような経験をもとに、今回の本プロジェクトは、次のパンデミックに備える感染対策研修として企画され、本委員会において研修プログラムや受講対象者等の検討を行った。研修当日は、北海道から九州まで100名を超える先生方のご参加をいただいたことに感謝申し上げたい。地域のリーダー・あるいは次のリーダーとして活躍が期待されている先生方に御参加いただいたことが重要である。それぞれの先生方はすでに多くの知識・経験をお持ちの先生方である。今回の研修方法や内容を参考に、それぞれの地域で特色のある「診療所における新興感染症対策研修」として横展開していただけることを期待している。

本プロジェクトの企画・進行に関して熱心に議論を行ってくださった本委員会の先生方、当日朝早くからお集まりいただきインストラクターとしてご協力いただいた日本環境感染学会の先生方に改めてお礼を申し上げたい。本委員会委員には、研修後の

検証もご検討いただいた。また、今回の研修会には厚生労働省からのご参加をいただいたことにも感謝したい。持続的な研修体制の構築とその実践のためには医師会・医療機関・学会のネットワークとともに、行政および地方自治体との連携が極めて重要になる。今後、本研修会に参加した先生方が地域に戻り、自治体と一緒に地域の実情にあった研修会を開催していただけることを期待している。最後に、大変お忙しいなか本研修会にご参加いただいた先生方に改めてお礼を申し上げて本研修会の総括の言葉とさせていただきます。